

深いリフレクションを促す授業実践に関する一考察 短期大学のPBL におけるリフレクションシート の分析

著者	小山 理子, 松村 佳世
雑誌名	京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究 紀要
号	56
ページ	115-120
発行年	2018-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1108/00000918/

深いリフレクションを促す授業実践に関する一考察

—短期大学のPBLにおけるリフレクションシートの分析—

小山理子
松村佳世

1. 問題意識と目的

近年の高等教育において、アクティブラーニングを中心とした教育改革、授業改善が進められる中、アクティブラーニング型授業のひとつの形態であるプロジェクト学習も多く採用されるようになった。プロジェクト学習とは、「細分化され体系化された教科・科目の学習を超えて、実世界に関する問題解決に取り組ませる学習戦略であり、実世界に関する解決すべき複雑な問題や問い、仮説を、プロジェクトとして解決・検証していく学習」と定義される（溝上 2016）。学生の自己主導型の学習デザイン、教師のファシリテーションのもと、問題や問い、仮説などの立て方、問題解決に関する思考力や協働学習等の能力や態度を身につける。

プロジェクト学習にも課題がある。そのひとつが、活動の能動性は高まるものの、その活動を通じて、学生が何を身に付けたか、学生自身も教員も不明瞭なままで終わってしまい、活動が学習成果に結実しないことである。それを避けるためにはリフレクションが重要であることが、これまでに数多く指摘されてきた（Eyler & Giles 1999, 河井・木村 2012）。リフレクションの質の深まりは、ものごとを広くとらえ、柔軟に知識や経験を再構成できる能力の上昇を意味する。そのため、複数の視点からの言及ができる「批判的リフレクション（critical reflection）」や、経験の意味づけや、先の批判的リフレクションによる「考え方の変容（perspective transformation）」が最も深いリフレクションとされる。また、深いリフレクションは、学びのプロセスの変化やより良い学習成果に影響があるとされている（Moon 2004）。

そのため、著者らは、短期大学でのプロジェクト学習の授業実践を通じて、リフレクションの質の深さと学習成果の関連についての研究を進めてきた。具体的

には、プロジェクト学習で使用するリフレクションシートの記述内容に着目し、「段階的評価」と「カテゴリ評価」の2つの評価方法により、リフレクションシートの記述内容の深さと類型を分析することで、どのようなリフレクションが学習成果に結びついているかを考察した。その結果、授業での活動や学習内容を複数の観点から考察するようリフレクションを行っている学生が、学習成果を獲得している傾向にあること、その傾向は自分で活動計画を立てる必要がある段階においてより顕著になることを明らかにした（小山・松村 2017）。しかしながら、上述したような深いリフレクションを誘う要因については、未だ明らかにされていない。

そこで、本研究では、小山・松村（2017）の研究を発展させ、リフレクションの質の深さと授業内容の関連を分析し、学生の深いリフレクションを誘う要因を明らかにすることを目的とする。本研究により、リフレクション、学習成果、授業内容の3つの関係を確認することを通して、プロジェクト学習において、どのような授業を行えば、深いリフレクションが行われ、学習成果の獲得につながるのかについて示唆を得ることが可能となる。

2. 方法

2-1. 分析対象

調査対象科目は、京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の2017年度2年生前期必修科目「ライフデザイン特論 I f」（週1回、全15回）である。本科目の到達目標は3項目あり、「テーマに従って情報収集（調査・学習）する」、「テーマに従って集めた情報を基にしてデザイン（企画・計画・意匠作成）する」、「テーマに従ってデザインしたものを発表する」である。

本科目は複数クラスが存在し、担当教員が上記の到達目標に準じて、授業のテーマならびに授業内容を決定し、学生は希望するクラスを選択することが可能である。「ライフデザイン特論Ⅰf」では、授業テーマを「オリジナル色打掛の商品開発」とし、和装婚礼衣装である色打掛のデザインを考案し、提案を行うプロジェクト型授業として授業を設計した。授業は大きく情報収集、情報分析・デザイン作成、提案の3つの要素で構成されている。まず、受講生は、実際に和装婚礼衣装を製造している企業への訪問や取材、書籍やカタログ、インターネットによる情報収集を行う。次に、情報収集を基にマーケティングの視点を参考に情報分析を行い、商品コンセプトを立て、デザインのラフスケッチを含めた商品企画提案資料を作成する。最後に、受講生全員が、デザインの専門家と教員、他の学生に対してプレゼンテーションを行う。

授業スケジュールと授業内容を表1に示した。毎回の授業はアクティブラーニング型授業で構成されており、表1では、講義のパートを【講義】、アクティブラーニングのパートを【AL】として記載した。なお、本研究における講義は、「教員からの一方向的な知識伝

達による学習」、アクティブラーニングは、溝上（2014）の定義に従い、「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う学習」とする。本授業で【AL】に分類された内容は、具体的には、ワークシートを用いた個人ワークおよびグループディスカッション、全体での情報共有およびディスカッション、プレゼンテーションである。

15回の授業のうち、リフレクションシートの記入を行なった授業回について、受講生のリフレクションシートのうち、分析が可能な7枚のリフレクションシートを分析対象とした。リフレクションシートの記述内容は、匿名性を確保しデータ化し、倫理的配慮を行った。

2-2. 分析手順

リフレクションシートの評価には、Hatton & Smith（1995）の4段階の評価の枠組みを用いる（表2）。また、リフレクションシートの評価方法は、小山・松村

表1. 授業スケジュール、授業内容

授業回数	授業内容		次回までの課題
1	オリエンテーション	【講義】 ・授業概要 ・和装の概要とそれを取り巻く環境 【AL】 到達目標についてワークと発表	和装について調査
2	和装婚礼衣装の基礎知識	【講義】 吉祥文様、西陣織について 【AL】 課題の発表、色打掛の体験	—
3	マーケティングと商品企画の基礎知識	【講義】 企画について 【AL】 画像についてのグループワーク	画像収集
4	キーワードとコンセプト	【講義】 コンセプトについて 【AL】 キーワードを抽出	企業訪問準備
5	企業訪問・ヒアリング	【AL】 企業訪問、取材	取材のまとめ
6	企画書作成	【講義】 企画書作成、中間プレゼンの説明 【AL】 企業訪問の共有、企画書作成	企画書作成 中間プレゼン準備
7	中間発表	【AL】 中間プレゼン	
8	企画書改善	【AL】 企画書のブラッシュアップ	企画書作成
9	和装婚礼衣装のデザイン	【AL】 企画書を基に、デザイン画作成①	デザイン画作成
10	和装婚礼衣装のデザイン	【AL】 企画書を基に、デザイン画作成②	デザイン画作成
11	提案資料作成	【AL】 最終プレゼンの設計	最終プレゼンの資料準備
12	提案資料作成	【AL】 最終プレゼンの資料作成	最終プレゼン準備
13	最終発表	【AL】 最終プレゼンとフィードバック	振り返りレポート
14			
15	まとめ	—	—

表 2. リフレクションの質の段階的評価

段階	評価の区分	評価基準
1	叙述 (Descriptive Writing)	出来事や活動を叙述しただけ。リフレクションとは言えない。
2	リフレクションを部分的に含んだ報告 (Descriptive Reflection)	出来事や活動における自分の感情や判断をそのまま書く。
3	対話的なリフレクション (Dialogic Reflection)	書くことを通じて自分を振り返り、出来事や活動に意味付けや理由付けを行う。
4	批判的リフレクション (Critical Reflection)	出来事や活動を多角的な視点で分析する。より大きな社会的・文化的な背景を理解して、その出来事を文脈の中に位置づける。

引用：Hatton & Smith (1995)

表 3. リフレクションシートの評価基準と記述例

評価 得点	評価基準	記述例
1	活動内容しか述べていないもの、あるいは感想が述べられているが活動内容が不明瞭で何を指しているのか記述からは読み取れないもの	今日は前回のデザインに付け加えたり、完成に近づけた。絵は苦手やし、ペンが全然進まなかった。先生が牡丹書いてくれてすごく上手いしびっくり。プレゼンに向けて来週は資料作り頑張る。
2	自身の活動内容の簡単な説明と、それに続けて短い感想を付け加えたもの	入れる予定の無かったつるを入れて見ようという感じになった。同じ花ばかりだったのでつるを入れてみたけど、自分で書いたイメージの絵だとあまり想像つかなくて、どんなのになるか不安。
3	自分なりの気づきや考察が活動と関連づけて述べられているもの	なぜそのコンセプトにしたのかなどきちんとした理由や説得力が必要なんだということを確認した。 割付をするためのお花の柄だったり、種類を知るべきだと思った。 この一週間で細かい部分（ターゲットなど）を決めていかないといけないので大変だけれど、頑張りたい
4	それを客観的な視点を入れて考察したり、複数の観点からの気づきを述べているもの	自分がスキな「かわいい」と人が思う「かわいい」は違うから、自分の思いだけをこめて作品を作っても良いものにならないと思った。 色打掛の中に着ている格子柄の着物はなんなのか。洋服の素材を組み合わせる良いのか。色打掛を作るにあたって、ルールやNGなことはあるのか。

(2017)と同様とし、以下の手順で分析を行う。

(1) リフレクションシートごとに、各授業回の記述内容を段階的評価により評価し、「授業回得点」(1点～4点)を算出する。

(2) 各回の「授業回得点」の平均値および記述数の平均値を算出し、その結果を比較する。

(3) 「授業回得点」の平均値が高い授業内容の特徴を、リフレクションシートの記述を参照しながら、抽出する。

3. 結果

3-1. 段階的評価の結果

上述した分析手順に従って、各リフレクションシートの記述を段階的評価により評価した結果および記述例を表3に、「授業回得点」の平均値を表4に示す。全体の平均値は2.5であり、第3回目の授業の平均値

が3.1で最も高く、次いで第7回目の授業の平均値で3.0であった。

表 4. 「授業回得点」の平均値

授業回	授業回得点の平均値
第2回	2.7
第3回	3.1
第4回	2.5
第6回	2.7
第7回	3.0
第8回	2.2
第9回	2.0
第10回	2.1
第11回	2.3
第12回	2.3
合計	2.5

3-2. 「授業回得点」の平均値が高い授業内容の特徴の抽出結果

「授業回得点」の平均値が高得点であった第3回目と第7回目の授業に着目し、この2回の授業内容の特徴をリフレクションシートの記述を参照しながら抽出した。結果を以下に記す。

(1) 第3回目の授業について

第3回目の授業では、まず教員が講義を行った後、個人ワークを行い、ワークの結果をグループで共有するという工程であった。講義においては、商品を作るために、なぜ企画が必要なのか、マーケティングの視点から約10分講義を行った。講義では、ニーズを知るための市場調査だけでなく、エンドユーザーに近い立場である自分の「好きだと思うもの、良いと思うもの」を追及することが、商品に関する専門知識と同じくらい重要であることを説明した。個人ワークでは、数十冊ある和装婚礼衣装のカタログを見ながら、自分の好きな衣装のページに付箋を貼り、グループではなぜ自分がそれを良いと思うのか言葉で説明し合った。

第3回目の授業のリフレクションシートの記述内容の一部と、それに関連する授業内容の特徴を表5に示す。

記述1では、自分が良いと思った商品の特徴を具体的に説明している。記述2では、講義をふまえて「自分の好きを追及する」ことに共感している。このように、「自分の好き」を手掛かりに考えを深めることに関する記述は、7人中4人に見られた。

記述3や4では、「自分の好きなもの」と「他者の好きなもの」との比較が行われている。このような記述は7人中3人に見られた。

(2) 第7回目の授業について

第7回目の授業では、第3回目～第6回目の授業を通じて自分の好きなものの特徴をキーワード化し、そこから考えた商品コンセプトと、使いたい文様と意味を企画書にまとめ、中間発表として全員の前でプレゼンを行った。

第7回目の授業のリフレクションシートの記述内容の一部と、それに関連する授業内容の特徴を表6に示す。

表5. 第3回目のリフレクションシートの記述内容と授業内容の特徴

	リフレクションシートの記述内容 (一部抜粋)	授業内容の特徴
記述1	好きな色打掛を選んで、自分は赤色が好きだけど、他の色も良いな、と思った！！色が鮮やかなやつは柄が少な目の方が大人っぽく見えた。逆にグレー(シルバー)の様な色は、柄がたくさんある方が可愛いと思った。	・外化(可視化、言語化) ・気づき
記述2	自分の好みを追及することも大切という考え方がすごくいいと思ったし、これからそうしていこうと思った。	・内化(講義への深い理解) ・共感
記述3	今日は色打掛のパンフレットを一覧みて自分の好きな物を選んでグループの中で発表した。皆の好みが違うことが分かっておもしろかった。	・他者からの気付き ・他者と自己の比較
記述4	自分がスキな「かわいい」と人が思う「かわいい」は違うから、自分の思いだけをこめて作品を作っても良いものにならないと思った。	・他者からの気付き ・他者と自己の比較 ・新たな知識を既存知識との関連付け

表6. 第7回目のリフレクションシートの記述内容と授業内容の特徴

	リフレクションシートの記述内容 (一部抜粋)	関連する授業内容の特徴
記述5	1人ひとり考えることが全く違っていろいろな案やコンセプトを聞いておもしろかった。	・外化(発表) ・他者と自己の比較
記述6	オリジナリティーあるプレゼン。みんながそれぞれ雰囲気通りの個性あるコンセプトやモチーフを選んでいました。今までは、和装に一切きょうみなかったんですが調べてみたりして柄で幸福とかを表現できるのがウェディングドレスと違うとこなので、着たいとかもっとどんな柄があるか知りたいと思いました。	・個性の尊重 ・内化(新たな知識の獲得)
記述7	1人1人の発表を見て自分ももう少しこうしたら良いんじゃないかな？とアイデアが浮かんできました。	・外化(発表) ・他者と自己の比較
記述8	今日のプレゼンは皆それぞれ違った感じで聞いててすごくおもしろくて楽しかった。皆の考えたのを聞いてて、それ良いとか自分の考えたやつとは真逆な案もあっておもしろかった。色打掛の文様の中にもたくさん種類もあって意味もしっかりとあってすてきだったし、もっと自分の案も細かくしっかり調べたら良かったと思っ、そこが欠点だとわかった。	・外化(発表) ・他者と自己の比較 ・課題の発見

す。

記述5や6にみられるように、7人全員が他の人の発表が自分と違っていたことを好意的に捉えていた。記述7や8では、自分のアイデアを深めたり、自分に足りない部分に気づいたりするのに他者の発表が刺激になったことに触れていた。同様なリフレクションが、4人にみられた。

4. 考察

本研究の目的は、リフレクションの質の深さと授業内容の関連を分析し、学生の深いリフレクションを誘う要因を明らかにすることであった。そこで、短期大学のプロジェクト学習におけるリフレクションシートの記述内容を、段階的評価により評価を行った。そして、その評価結果が高い授業に着目し、深いリフレクションが行われる授業の要素を抽出することを試みた。分析結果をもとに、深いリフレクションが行われる授業の要因について考察を行う。

4-1. 深いリフレクションが行われる授業の内容について

まず、深いリフレクションが行われる授業の要因について、段階的評価の結果が高い授業である第3回目、第7回目の授業内容に着目する。第3回目と第7回目に共通する特徴として、以下の3点を指摘することができる。

1点目が、授業が学生同士の学び合いの場になっていることである。第3回目と第7回目の授業ともに、グループやクラス全体での共有を行う回であった。記述1～7から、自分の発表を他者の発表と比べることで、その違いから自分の発表の良さや足りない点に気づいたりしている様子がうかがえる。ここでは、学生が調べたことや自分の意見を外化（アウトプット）するとともに、他の学生の発表を聴く機会ことで理解を深めるような内化（インプット）になっており、このような学びの環境が、深いリフレクションを誘発する可能性がある。

2点目が、学生の発表における、発表内容の多様性である。第3回目の授業での発表の課題は「カタログを見て、自分の好きな衣装をいくつか選び、好きだと思ふ理由とともに発表する」であり、第7回目の授業

は「自分の好きなものの特徴のキーワード、そこから考えたコンセプトと、使いたい文様と意味を企画書にまとめ、プレゼンを行う」であり、どちらの回も、回答に多様性が生じるような構造化された課題となっていた。第2回目の授業においても、学生が個々に調べてきたことを発表する時間が設定されていたが、この時の課題は「色打掛・引振袖・白無垢の特徴を調べて発表する」であり、回答がひとつに限定されるような構造化されていない課題であった。そのため、学生間の回答にはあまり差が見られなかった。構造化された課題に対する発表の場合に、深いリフレクションが行われる可能性がある。

3点目が、学生の発表内容に対する多様性と個性の尊重である。第3回目と第7回目の授業ともに、学生の発表内容が学生によって多様であり、個性的であることを好意的に捉える記述が目立った。これは、商品企画やデザインに取り組むという科目の特性からも、発表内容が多様であることが自然であるという共通認識が構築されていたためだと考えられる。また、発表の前段階において、教員が学生の個々の興味や関心を尊重するような指導を心がけていたこととも関連するだろう。自己と他者との違いを好意的に捉えられる場であったからこそ、学生は自己と他者、他者と他者の差異からリフレクションを深めることができたと考えられる。

以上のことから、外化の機会を設けること、そこで学生の発表内容が多様になるような構造化された課題を設定することに加えて、学生と教員の両者が「発表内容や回答はバラバラで良い、その方が面白い」という共通認識を授業内で構築することが、深いリフレクションを導くためには重要であると考えられる。

4-2. 深いリフレクションが行われる授業の前段階の授業内容について

さらに、深いリフレクションが行われる授業の要因について、段階的評価の結果が高い授業の前段階の授業に着目する。第7回目の授業は、作成した企画書をもとに発表するという内容であった。第3回目から第6回目までの授業は、この企画書の作成のための知識獲得や情報収集や情報分析となっている。第7回目の授業におけるリフレクションの深まりは、第3回目から第6回目までの授業の内容も影響していることが考

えられる。

小山・松村 (2016) では、プロジェクト学習において、学生が情報収集に困難を感じていることを背景に、情報収集の手法としてインターネットの画像検索が有効であることを指摘している。学生は、自分で集めた画像の分析を通じてキーワードを抽出し、それをもとに商品コンセプトを考える。この一連の内化によって、プロジェクト学習に不慣れな学生であっても、スムーズに情報を集め、それをもとにアイデアを出すことが、ある程度はスムーズに行える。今回の授業においても、インターネットの画像検索を取り入れた情報収集を活用し、指導を行った。つまり、外化の機会の前段階で、内化する機会がしっかりと用意され、それに対する指導が行われていたと言えよう。

このように、外化の機会の前に内化の機会を設け、さらに必要に応じて、内化のための方法を指導するなど適切な支援を教員が行うことが、学生の外化の質を高め、深いリフレクションを誘発する上で重要だと考えられる。

5. まとめと課題

本研究では、リフレクションの質と授業実践との関係に着目し、プロジェクト学習における深いリフレクションを誘う要因を考察した。プロジェクト学習における深いリフレクションを誘う要因として以下の4点の可能性を明らかにした。

- (1) グループや全体での共有活動を通じた学生同士の学び合いの環境
- (2) 学生の答えに多様性が生じるような構造化された課題
- (3) 学生の発表内容に対する多様性と個性の尊重
- (4) 外化のための内化の機会の提供とその支援

これらに留意し、課題設定から授業構成、指導や支援を構造化して行くと、学生の学びとリフレクションが深まり、さらには学習成果が高まる可能性がある。しかしながら、本研究は、短期大学の一つのプロジェクト型授業の事例であり、さらには7枚のリフレクションシートの記述の分析から得られた結果からの考察にとどまっている。そのため、抽出された要因も本研究に限定されたものであり、一般化することができていない。また、リフレクションの質の評価方法の妥

当性に関しても、更なる検証が必要である。これらが今後の課題である。

参考文献

- Eyler, J., D. Giles, Astin, A. W. (1999) *Where's the learning in service-learning?* San Francisco, CA: Jossey-Bass
- Hatton, N. & Smith, D. (1995) Reflection in teacher education: Towards definition and implementation. *Teaching and teacher education*, 11 (1), 33-49.
- 河井亨・木村充 (2012) 「サービス・ラーニングにおけるリフレクションとラーニング・ブリッジングの役割：立命館大学『地域活性化ボランティア』調査を通じて」『日本教育工学会論文誌』36 (4) 419-428.
- 小山 理子・松村 佳世 (2016) 「産学連携型 PBL における情報収集力育成のための画像検索ツールの有効性の考察」『京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要』54, 257-266.
- 小山理子・松村佳世 (2017) 「プロジェクト学習におけるリフレクションと学習成果の関連の検討：短期大学のプロジェクト学習におけるリフレクションシートの分析から」『京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要』55, 253-263.
- 溝上慎一 (2014) 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- 溝上慎一・成田秀夫 (編) (2016) 『アクティブラーニングと PBL・探究的な学習 (アクティブラーニング・シリーズ第 2 巻)』東信堂.
- Moon, J. A. (2004). *A handbook of reflective and experiential learning: Theory and practice*. London : RoutledgeFalmer.